

わが

かけがえのない未来のために 今私たちができること

南相馬市について

南相馬市は、福島県浜通り地方の北部に位置する、温暖な気候と山・川・海の豊かな自然に恵まれたまちです。

毎年5月には、一千有余年の歴史と伝統を誇る祭り「相馬野馬追」の舞台となります。国の重要無形民俗文化財に指定されるこの祭りは、平将門が下総国(千葉県西北部)に野馬を放ち、敵兵に見立てて軍事訓練を行ったのが始まりと



勇士にして華麗な戦国絵巻「相馬野馬追」

伝えられています。先祖伝来の甲冑に身を固めた約400騎もの騎馬武者が一堂に集結する様は、戦国時代そのままに一幅の絵を見ることがとく天下無比の圧巻です。

実はこの相馬野馬追、これまでは7月末に開催されており、騎馬武者たちの熱気と真夏の暑さが祭りの代名詞でしたが、近年の酷暑から人馬を守るため、令和6年から2カ月前倒しとなったものです。薫風の中、3日間にわたり繰り広げられる勇壮な戦国絵巻を、皆さまにもご覧いただければ幸いです。

震災からの復興

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、本市の沿岸部は甚大な被害を受けました。また、東京電力福島第一原子

力発電所事故により市内一部には避難指示が出され、住み慣れたわが家を離れざるを得ない市民も多くおりました。その後、平成28年に指示が解除されたものの、人口減少と少子高齢化は急速に進んでいます。

そうした中であって、起業家や移住者の支援に力を入れた結果、



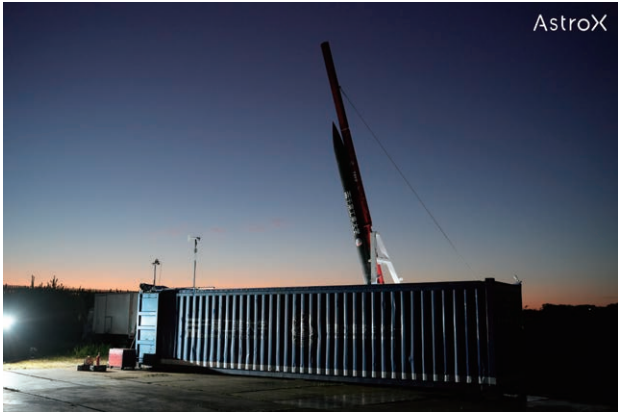
地域課題に取り組む若き起業家たち



高い評価をいただく子育て支援

一度は住民がゼロになった地域において、さまざまなアイデアで課題に取り組もうとするチャレンジングな若者が続々と集まっています。また、子育て環境の充実を目的とした「幼稚園・保育園から中学校までの給食費無料」「幼稚園・保育園の保育料無料」「18歳までの医療費無料」の「3つの無料化」などの取り組みが、「日本子育て支援大賞」受賞や「住みたい田舎ベストランキング(宝島社)」での上位ランキングなどの評価につながったものと思っています。

このように、震災と原発事故という未曾有の事態に対し、愚直にそして柔軟に取り組むことで「100年のまちづくり」家族や



令和6年11月に打ち上げられた小型ロケット

© AstroX, Inc.

「現在」が「過去」の積み重ねであるように、「未来」もまた「現在」の積み重ねであるということを胸に刻み、これからの施策の一つひとつが子や孫たち、さらにその先の世代が住むまち

友人とともに暮らすまち」の実現を目指しています。

100年のまちづくり

「100年のまちづくり」の根底にあるのは、二宮尊徳翁の教え「報徳仕法」です。約200年前、荒廃したふるさとを再興に導いたこの報徳仕法は、「勤労」や「積小為大」など、まごころを尽くしてコツコツと物事にあたることの大切さを説いた教えとして知られています。また同時に、激減した人口を取り戻すために遠く藩を超えて移民を受け入れるなど思い切った政策も行われました。

の礎となるよう、長期的な視点を大切にしたまちづくりに取り組んでまいります。

創造的復興に向けて

現在、本市では宇宙関連企業の進出が進んでいます。その背景としては、東に太平洋を臨み、一番近い陸地はアメリカ大陸の西海岸というロケーションに加え、望んだ姿ではないものの原発事故の影響により沿岸部には未利用の土地が広がっているという地理的条件が挙げられます。また、市内に立地する「福島ロボットテストフィールド」において最先端の研究や実証が行えることも大きなメリットです。市では、こうした動きに的確に対応するため、令和6年度に「宇宙関連産業推進室」を立ち上げ、思い切った取り組みにも柔軟性とスピード感をもってあたっています。

結びに

令和6年は、市内で3回の民間事業者によるロケット打ち上げ実証が実施されました。現地には関係者のほか、たくさん地域住民が訪れ、ワクワクした面持ちで空

を見上げ、歓声を上げる姿が見られました。

震災直後、がれきで埋め尽くされていた沿岸部には立ちすくみ、うつむく人々の姿がありました。あれから14年、あの時と同じ場所にこのような未来が待っているとは想像すらできませんでした。多くの困難に直面しながらも、私たちがここまでの道のりを歩んできたことができたのは、皆さまから

プロフィール

- ◆ 面積 398.58 km²
- ◆ 人口 5万5669人
(震災当時 7万1561人)
- ◆ 世帯数 2万4388世帯

〔将来都市像〕100年のまちづくり
〜家族や友人とともに暮らすまち〜
〔まちの特徴〕山・川・海に囲まれ、おだやかな自然の中でゆったりと暮らせる環境が魅力のまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日、小高町、鹿島町、原町市が合併



南相馬市長
門馬和夫

寄せられた多くのご支援のおかげです。ここに改めて感謝申し上げます。ここに改めて感謝申し上げます。

能登半島の被災地では、今なお懸命な復旧作業が続いているものと拝察いたします。今はまだ未来を思い描くことが難しい時期にあると思いますが、私たちの姿が能登の皆さまの希望となるよう、さらなる復興に取り組んでまいります。



〔特産品〕米（コシヒカリ・天のつぶ）、ブロッコリー、カボチャ（九重栗）、唐辛子、みそ
〔観光〕乗馬、サーフィン、甲冑着付け体験、大悲山の石仏、桜井古墳公園、海水浴
〔イベント〕相馬野馬追（毎年5月最終土・日・月曜日開催）、野馬追振興競馬大会、野馬追の里マラソン大会、鹿島御子神社火伏せ祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

みんなのでつくる 幸せを手にするまち 幸手

幸手市は埼玉県北東部に位置し、豊かな自然と宿場町としての歴史が残り、こぢんまりとしながらも都心からほど近く、心が和む風景が広がる、住むのに「ちょうどいい」まちです。市内の権現堂桜堤は約1000本の

囲碁のまち さつて

囲碁の本因坊を第8世、第9世、第10世の三代続けて輩出するという全国でも例を見ない貴重な文化遺産を基盤とし、「囲碁のまち さつて」として囲碁文化の薫るまちづくりを推進しています。市内小学校に囲碁クラブを設置し、幸手市囲碁連盟より指導者を招聘するなど、子どもたちへの囲碁の普及に取り組んでいます。また、令和8年度に開催予定の「ねりんピック」彩の国さいたまでもあります。



全国有数の桜の名所 権現堂桜堤



囲碁のまち さつて

**安心して子育て
ができるまち**

安心して子育てが

2026では囲碁部門の会場にもなっています。

できる環境づくりを進めるため、こども家庭センターを令和6年に設置しました。妊娠から出産、子育てまで切れ目ない支援を提供するほか、子ども医療費助成の高校生までの拡大や、5歳児健康診査の実施などの取り組みを行っています。こどもの育ちと子育てを、行政や地域、社会全体が見守り、協働により支える取り組みをさらに推進するため、令和7年度からは「こどもの居場所づくり事業」にも取り組んでいきます。

学校再編と教育DXの推進

教育の分野では、児童・生徒にとつてよりよい教育環境の実現を目指し、学校再編を進めています。小学校3校と中学校1校を一体的に捉え、市内で初の義務教育学校となる「幸手市立東小中学



リーディングDXスクール事業

校」を令和9年4月1日に開校するとともに、2校の小学校を一つに統合する予定です。現在、教育委員会では開校に向けて準備委員会と専門部会を設置し、地域と連携しながら具体的な協議を進めています。

教育DXにも力を入れており、「ICTの善き使い手」として、これからのデジタル社会で活躍できる子どもたちを育てたいという、文部科学省のリーディングDXスクール事業の指定を受けて、児童・生徒の情報活用能力の向上



企業との連携、「幸手市産コシヒカリ」の商品化



幸手市ハッピー・スマイ(米)ル推進事業

を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXに取り組んでいます。

農業を核とした持続可能なまちづくり

本市は県内有数の米どころであり、日本一おいしいお米と評判を

納された「白目米」の発祥の地とされています。お米を活用した取り組みとして、未就学児1人あたり最大60kg分の幸手産米を給付する「ハッピー・スマイ(米)ル推進事業」を行っています。この事業は子育て世帯への経済的な支援のみならず、本市の農業を支援するとともに、子どもたちが地域で栽培されたお米を食べて育つことで、シビックプライドの醸成につながるものと考えています。

民間企業との連携事業では、株式会社イトーヨーカ堂との包括連携協定に基づき、「幸手市産コシヒカリ」を商品化し、令和6年9月に市内外のイトーヨーカ堂系列4店舗にて販売しました。発売日には私も自ら店頭立ち、皆さまに直接お米をお渡ししました。ちょうど米不足が話題となっていたタイミングも重なり、ご好評をいただき、地域農業の重要性を改めて実感したところです。

一方で、農業後継者不足が課題となっており、担い手不足の解消などを目的に、県外から新規就農希望者を「幸手市地域おこし協力隊」として迎え入れ、独立就農までの伴走支援を行っています。

民間企業などによる複数の大規模プロジェクトも計画されています。一つは、神明内地区において、JA全農が行う施設園芸における大規模多収栽培技術の確立・普及と人材育成を目的とした「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」の整備で、もう一つは、上高野地区において、民間企業が約30ha規模の土地改良事業を実施し、施設園芸野菜の生産を行う計画が進行中です。市においては、

これら事業の早期実現に向けて、地域や国、県など関係機関との協議に関する支援を行っています。

また、令和7年10月に完成予定の大成建設グループ次世代技術研究所と連携し、子どもたちが、先進技術とふれあいながら、環境学習を行う取り組みの準備を進めています。これからの地域課題の解決には公民連携による取り組みが不可欠であり、さまざまな分野で

プロフィール



幸手市長
木村純夫

◆面積 33・93km²
◆人口 4万8725人
◆世帯数 2万3514世帯

〔将来都市像〕みんなでつくる 幸せ
を手にするまち 幸手

〔まちの特徴〕豊かな自然と宿場町としての歴史が残り、こじんまりとしながらも都心からほど近く、心が和む風景が広がる、暮らすのに「ちょうどいい」まち

〔特産品〕幸手市産コシヒカリ、白目



米(江戸時代に日本一おいしいと言われた幻の米)、日本酒(全国新酒鑑評会金賞)、あい鴨加工品

〔観光〕権現堂桜堤、日光街道・幸手宿

〔イベント〕桜まつり、幸手市さくらマラソン大会、あじさいまつり、八坂の夏祭り、曼珠沙華まつり、市民まつり、水仙まつりなど

民間活力を積極的に活用したいと考えています。

本市は令和8年10月に市制施行40年を迎えます。40周年に向けて映画製作を始めとするさまざまなプロジェクトを企画中です。「みんなで作る 幸せを手にするまち 幸手」というビジョンを実現するため、市民と行政、企業が互いに手をとりあって、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民が主役！躍動するまち 多治見

伝統と文化が息づくまち

多治見市は、岐阜県の南東部に位置し、JR中央線により約30分で名古屋市中心部に到着できるなど、鉄道網や高速道路網が整ったまちです。四方を小高い山に囲まれた盆地の中に位置し、市の中心部を東西に一級河川の土岐川が流れています。盆地特有の気候で、夏季の日中は猛暑であり、平成19年には当時の国内最高気温となる40・9℃を記録しました。



美濃焼

本市を含む、隣接市で作られるやきものは『美濃焼』と呼ばれており、毎日の食卓を彩る

器をはじめ、

「志野」「織部」

「瀬戸黒」「黄瀬戸」などの

伝統技法を用

いた器など、

豊富な種類

があります。

1300年の

長きにわたり

本市の発展を

支えてきた文化や技は受け継が

れ、これまでに4人の人間国宝を

輩出しています。また、国宝を二

つ有する虎渓山水保寺や、昭和5

年に設立された多治見修道院な

ど、まちの至る所で『ほんもの』を

感じることができます。

近年は、商家や蔵が残るまちの

中心部のエリアを「本町オリベス

トリート」として整備し、古民家



本町オリベストリート



民泊推進事業補助金を活用した宿泊施設

を生かした新たな観光地として人氣を博しています。インバウンドをはじめとした観光客の滞在需要の増加に対応するため、民泊などの施設整備に係る補助制度を令和6年度から創設し、5件の民泊施設が開業されました。令和7年度はさらなる事業の拡大を目指し補助制度を推進することで、地域経済の活性化を図っていきます。

第8次多治見市総合計画

令和6年4月から、本市の最上位計画である第8次総合計画が始まりました。本計画は市長任期と連動するように前期4年、後期4年の8年間の計画となつていきます。策定の際には、市民や有識者、執行部、市議会による徹底した議論を踏まえて政策決定を図ること、市長や市議会議員が掲げたマニフェストを事業計画に落とし込むとともに、総合計画策定時点で財政的な担保を確保することで総合計画事業の着実な実現を目指しています。

本計画では、目指すまちの姿として、「市民が主役！躍動するまち 多治見」を掲げています。市民が日々の生活に生きがいを感じ、自分の考えや思いを持って行動し、まちづくりに気軽に参加して意見や考えを提案できるまちを目指し、市民の幸福度やまちの活力の向上につながる施策を積極的に動かしていきます。

公民連携による 取り組みの強化

総合計画を着実に実行・実現していくためには、行政だけの力では限界があり、多様な主体と共に「オール多治見」で取り組んでいく必要があります。

民間プールの活用



民間プールの活用

公民連携の取り組みとして、始めに着手したのは民間プールとの連携です。従来、市民に対し夏休み期間の学校プールを一般開放してきましたが、令和5年度からは、市内の民間スポーツクラブの協力により、2カ所の屋内プール施設の



たじみ健康マイレージアプリキックオフイベント

一部を借り上げ、一般開放を始めました。これにより、従来よりも低予算で、民間事業所の質の高いサービスを、年間を通じて市

民に提供することが可能となりました。

「たじみ健康マイレージ」の アプリ化

次に、市民が健康づくりに関する目標に取り組むことで健康マイレージ（ポイント）をため、抽選で景品が当たる「たじみ健康マイレージ」事業についてです。従来は紙ベースの申込書のみで受付をしていましたが、より広い年代層に参加してもらうため、令和6年6月から民間事業所の運用するアプリに新機能を追加していただきました。健康寿命の延伸のため、さらなる制度の拡充を図っていきます。

「産後ケア」事業の拡充

最後に、産後ケア事業の拡充です。令和6年度から出産後の母親と1歳未満の赤ちゃんの心身のケアと育児のサポートを図るため、従来の訪問型に加え、新たに宿泊型、通所型、夜間訪問型を導入し、実質24時間の手厚いサポート提供を実現しました。通所型においては、民宿を利用した産後ケアも実施しています。令和7年度からは市民病院の空きスペースを利用して、産後ケア事業を予定しており、

医療体制が整った病院ならではの安心感や、受け入れが難しかった5カ月以上の赤ちゃんの受け入れが可能となります。「多治見で子育てをしよう」と感じてもらえるよう、子育て支援策を進めていきます。

おわりに

人口減少や少子高齢化が進行する一方、情報通信技術の飛躍的な

進展や、さらなるグローバル化などにより社会・経済状況の大きな変化が見込まれ、本市の状況や市民のライフスタイルも大きく変わっていくことが予想されます。そのような中であっても、引き続き、本市の魅力や特徴である「多治見らしさ」を守り、育んでいき、市民にとって愛着や誇りを持てるまちとして発展していけるよう取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 91・25km²
- ◆ 人口 10万4853人
- ◆ 世帯数 4万8147世帯

〔将来都市像〕市民が主役！躍動するまち 多治見

〔まちの特徴〕1300年の伝統ある美濃焼の歴史や文化を受け継ぐ陶都。ほどよく都会でほどよく自然が残る

〔市町村合併〕平成18年1月23日、多治見市、土岐郡笠原町の1市1町が合併



多治見市長
高木貴行



〔特産品〕美濃焼、モザイクタイル、地酒、多治見あられ、ころうどん、うなぎ、たじみそ焼きそば

〔観光〕虎渓山永保寺、モザイクタイルミュージアム、美濃焼ミュージアム、本町オリベストリート

〔イベント〕たじみ陶器まつり（春秋）、多治見市制記念花火大会、美濃焼祭、多治見まつり、国際陶磁器フェスティバル美濃

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民一人一人が誇りに思える まちに向けて

長門市は、本州の最西北端・山口県の北西部に位置する、人口約3万人のまちです。海岸線は北長門海岸国定公園に指定され、日本の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出しています。さらに、「長門湯本温泉」をはじめ、趣の異なる五つの温泉郷を有するとともに、海上アルプス「青海島」



CNN「日本の最も美しい場所31選」に選ばれた元乃隅神社

や日本海を展望できる「千畳敷」、日本棚田百選の「東後畑」、米テレビCNNの「日本の最も美しい場所31選」に選ばれた「元乃隅神社」など、多様な観光資源は多くの人々を魅了しています。こうした豊かな自

然を背景とした第1次産業や観光

産業は本市の基幹産業であり、水産業では、剣先イカやアジの水揚げに加え、マグロの養殖やトラフグの陸上養殖が行われています。特に養鶏業は、県内鶏肉生産量の7割を占める上に、1万人当たりのやきとり店舗数が全国トップクラスに位置するなど、「やきとりのまち」としても知名度が上がってきています。

働く場の確保と 地域経済の活性化

しかし近年は、全域が過疎地域に指定されるなど、人口減少が急激に進んだ結果、生産年齢人口の減少により、基幹産業において後継者不在や労働力不足などの課題が顕在化してきました。そのため私は、このまま手をこまねいてい

では、人口

減少による負の連鎖に陥ることから、これら課題の克服には若者の定着とUターンが欠かせないと考え、そのための手段を集中的に講じています。



公民連携で再生した長門湯本温泉郷



市内で開催されたスマート農業実証事業実演会

中でも、従事者の高齢化が顕著となっている第1次産業においては、若者が魅力を感じ、参入したくなる持続可能な成長産業に押し上げようとしています。漁業収入の拡大に向けて、アワビの中間育成や赤ウニ・マガキの養殖支援に取り組むほか、農業では、業務の省力化・軽労化につながるスマート農業の推進や販路拡大に取り組み、「稼げる」農業従事者の育成に努めています。また、増え続ける

耕作放棄地を逆手に取り、所得増につながる有機野菜農場として利活用する民間活力の誘致に成功し、畜産農家から排出される自然由来の堆肥の有効活用結び付け、一昨年3月、中国地方で初の「オーガニックビレッジ宣言」を発するに至りました。

観光産業では、五つの温泉郷のうち、公民連携により再生した長門湯本温泉街に続き、俵山温泉街についても、まち全体を一つのホテルと見立てる「まちごと旅館」として再生する取り組みを始めています。また、年間約100万人



年間100万人を集客する道の駅センザキッチン

を集客する「道の駅センザキッチン」においては、多彩な地元産品をそろえるほか、観光コンベンション協会を併設し、観光情報の発信と市内周遊の促進を図っています。

一方、若者の希望する働く場の確保を図るため、本市にこれまで立地しなかった情報通信関連企業の誘致を進めることとし、高速ブロードバンド環境を市内全域に整備した上で、現在、その集積拠点施設を整備しているところです。ゆくゆくは、市内企業との連携による市内産業の生産性向上やDX化、人材の育成・定着など、好循環を生む社会システムの構築を図っていく考えです。

切れ目のない一貫した子育て支援

さらに、希望する若者が、安心して子どもを産み育てることができ、環境や支援体制の充実という「切れ目のない一貫した子育て支援」に取り組んでいます。子育て

世代の経済的負担の軽減を図るため、小・中学校における給食費を無償化したほか、高校卒業時までの医療費を完全無償化しました。加えて今年度からは、保育園など全ての園児に係る保育料を無償化します。また、出産時にはおむつ代などの助成、小・中学校入学時にはお祝い金支給、小・中学校最終学年には修学旅行費補助を行うなど、子どもの成長段階に応じた応援給付を展開しています。その他、妊産婦健康診査や乳幼児健康診査の充実に加え、子どもを産みたいと望まれる方が、安心して出産に向けた治療を行える環境を整えるため、今年度から新たに独自の不妊治療助成を行います。

教育面では、小学1・2年生に本



地元食材を利用した長門出身タサン志麻さんのフレンチ給食

市独自の英会話支援といった先進的な学習環境を提供しているほか、子どもたちが生まれ育ったふるさとに愛着と誇りを持てるよう、小・中学校の給食に地元食材を積極的に活用するほか、夢や目標に向かって一人一人のキャリア形成や自己実現を目指すキャリア教育に取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 357・31km²
- ◆ 人口 3万162人
- ◆ 世帯数 1万5369世帯

〔将来都市像〕ひとが輝き、やさしさがこだまするまち長門

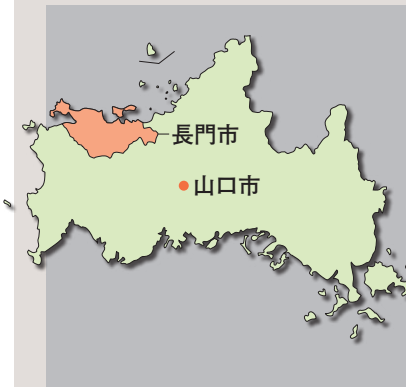
〔まちの特徴〕本州最西北端の豊かな海と五つの温泉郷のある自然と歴史・文化資源が豊富な魅力あるまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、長門市、三隅町、日置町、油谷町の1市3町が合併

〔特産品〕長門ゆずきち、長州ながと和牛、長州黒かしわ、長州どり、やき



長門市長
江原達也



〔観光〕青海島、千畳敷、元乃隅神社、道の駅センザキッチン、長門湯本温泉、俵山温泉、長門おもちゃ美術館、金子みすゞ記念館、香月泰男美術館、くじら資料館、村田清風記念館

〔イベント〕やぎとりまつり、音信川うたあかり、J・A・L向津具ダブル馬拉ソン、汗汗フェスタ、ながとブルーオーシャンライド、SEA TO SUMMIT

本市は、市町合併から20年という節目の年を迎えましたが、私は、人口減少下にあっても、本市の地域資源を最大限に活用し、持続可能で強靱な地域づくりを進めていくことが、「市民一人一人が誇りに思えるまち」の実現につながるものと考え、全力で取り組んでいるところです。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。